

2014年度 **初夏の読書週間** 6月16日～21日テーマ 「**読書がもたらす多面性**」標語 **最優秀賞 高校1年C組**『**探究心(おもい)の数だけ広がる知識(せかい)**』

優秀賞 高校2年A組

『めくるたび 身体(からだ)に走る 未知の刺激』

佳作 高校2年E組

『見た目は紙面、中身は無限』

「女が美しいのではない、美しい女がそこにいるだけだ。」とは、かの有名な評論家小林秀雄の言葉である。かつて、評論文の神様として大学受験には必ずといっていいほど出題された小林秀雄であるが、現在はその人気にかげりが見えているようだ。そんな中、2年前の大学入試センター試験で小林秀雄の文章から出題された。人気はなくなっているなどおこがましい限りであった。どうやら素晴らしい文章は、時間が経っても素晴らしいものなのであろう。はっきりと言ってしまえば、国語の教科書も何十年と内容は変わっていない。そして国語の授業も決まって昔から退屈な印象が強い。(名古屋学院の国語の授業といったら、N先生の恐ろしい授業の印象か。)最近では、情報化時代と言われ、授業でもデジタル化した授業が主流になりつつあるようだ。しかし、先ほど述べたように、素晴らしい文章は時間が経っても素晴らしい文章としてその価値を保つことが出来る。ならば、ここでもう一度見直してもらいたい。読書という価値を、楽しみを、喜びを。そして新たな主流を巻き起こしてもらいたい。読書というアナログを、デジタル化したこの世の中へ。そして、使い古された言葉たちを、たくさん

の場面で使ってもらいたい。年長者との会話しかり、同年代との会話しかり、年端の行かぬ子たちとの会話しかり、いつ誰がどこの場面であっても使えるタイミングが存在しているはずだ。ならばそれをどう使っていくのか。我々は学習する必要があるだろう。

読書とは、遙か昔から変わらぬ我々の人生の師である。人生の師を、ほころびたと思われている師を、もう一度様々な場面で登場させていこうではないか。きっと、そこここで、「美しい女たち」が現れるはずであろう。それは、みなさんに新たに真の感動を呼び起こしてくれるはずだ。人は悩みながら人生を歩んでいく。答えを探しながら、自分の人生を航海していく。悩みは解決したのだろうか、航海する先の桃源郷は見つかったのだろうか。「美しい女たち」は時には冷たく我々を見放し、冷たくあしらうだろう。しかし、彼女たちはまた、あたたかく我々を包み込み、我々を導き、輝かせてくれるであろう。すべてを見せず、適当にあしらって、我々を魅了していく「美しい女たち」……。この夏、魅惑の読書で、その新たな一面を見出してみようではないか。

中1・国語科 山田 敦

行事予定

- ① 学年別HR読書
- ② 館内展示 先生方による推薦図書コーナー & エントランスホールで推薦図書用紙のパネル展示
- ③ 図書館クイズ ★問題&解答用紙・ヒントはすべて図書館にあります。
★全問正解者に図書カード進呈。(満点多数の場合は抽選になることがあります)
- ④ 標語コンクール入賞者表彰 (学年別チャペル礼拝にて)
- ⑤ 日替わりの催し

日にち	時間	場所	内容
17(火)	12:50～	図書館	吹奏楽部有志による演奏 ♪ クラリネット三重奏 ♪
18(水)	12:45～	図書館	講演会
19(木)	15:40 ～ 16:30	敬愛ホール	ビブリオバトル バトラー(=発表者)が 1冊の本について熱く語ります! チャンプ本は誰の本になるのか?